

# 塗布方式の比較

## ロッドコート方式とグラビアコート方式の比較

### ○塗布量制御方法

グラビアコート：グラビアセルの面積で制御

ロッドコート：ロッドの溝面積で制御。

※両方式ともに塗布膜の薄層性は優れる。

### ○ドクターブレードの有無

グラビアコート：ドクターブレード必須

ロッドコート：ドクターブレード不要

### ○装置シンプル性・コストパフォーマンス

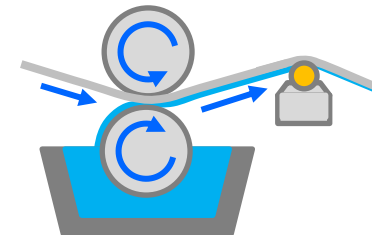
グラビアコート < ロッドコート

ブレードが無いため、段取りやメンテナンスに関して優位

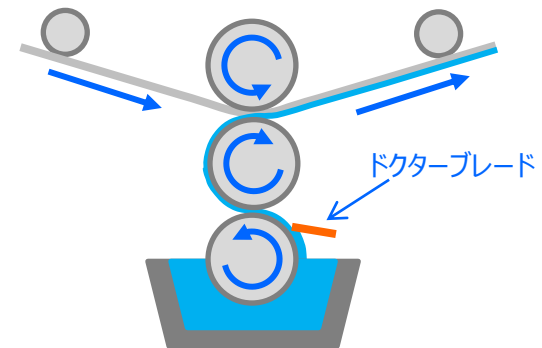
### ○塗布量精度への影響

グラビアコート：グラビアロール精度 + ドクターブレード精度

ロッドコート：ロッド精度のみで再現性が良い。



ロッドコート方式



グラビアコート方式

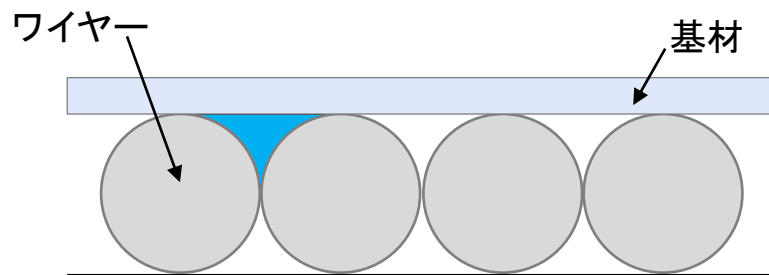
# ロッドコート方式の特徴

## ロッドコート方式

- 塗布量がロッドで決まるため、制御がシンプルで精度・再現精度を出し易い。
- ロール径が小さく、乾燥の影響を受け難い。
- 設備のコストパフォーマンスが良い。

△ロッドの精度で塗布量精度がほぼ決まってしまう。

従来はロッドの上にワイヤーを均一に巻いたワイヤーバー(ワイヤーロッド)を使用

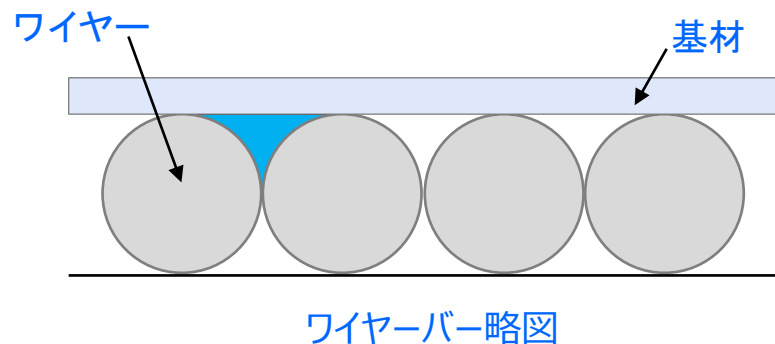


ワイヤーバー略図

# ワイヤーバーの問題点

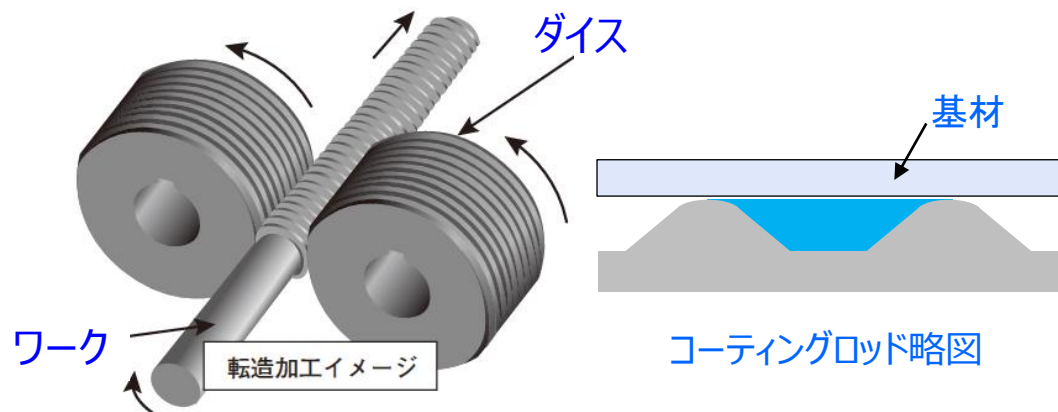
## ワイヤーバーの問題点

- ① ワイヤー間の目詰まり
- ② ワイヤーの巻きムラ
- ③ ワイヤー自体の円筒度・真円度不良等
- ④ ゴミによるワイヤーの出っ張り
- ⑤ ワイヤーの摩耗
- ⑥ ワイヤーを巻いた後、硬化処理しにくい
- ⑦ 隙間が円形状に限定される
- ⑧ ⑦より、頂部が円弧の一部のため、支持体への面圧が高くなる。



これらの問題点を解決

転造加工によるコーティングロッド



# 転造コーティングロッドの開発(UCロッド)

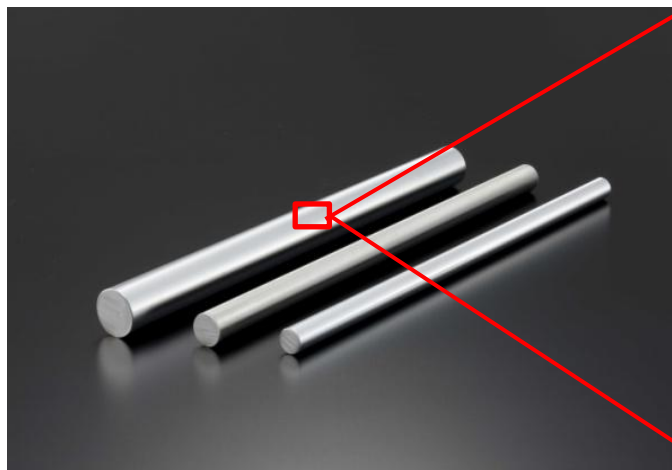
長年の精密転造の技術を生かし  
転造コーティングロッドの開発・販売を開始しました



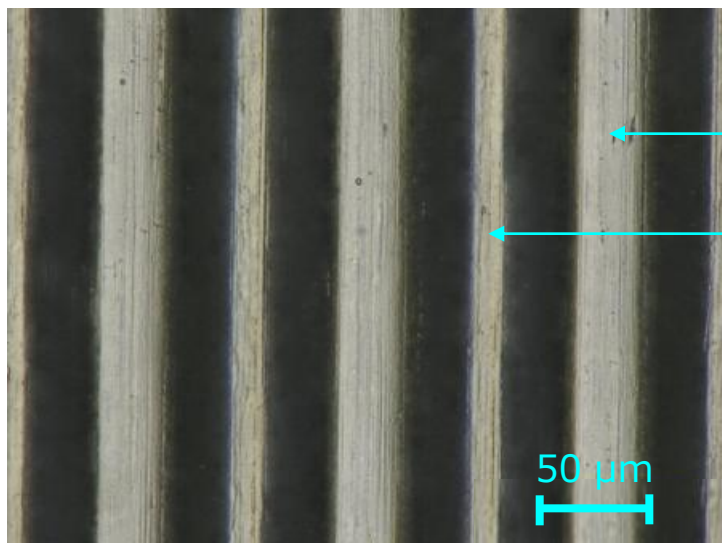
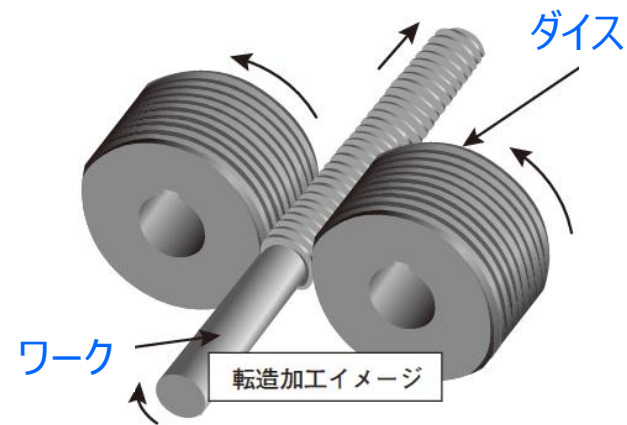
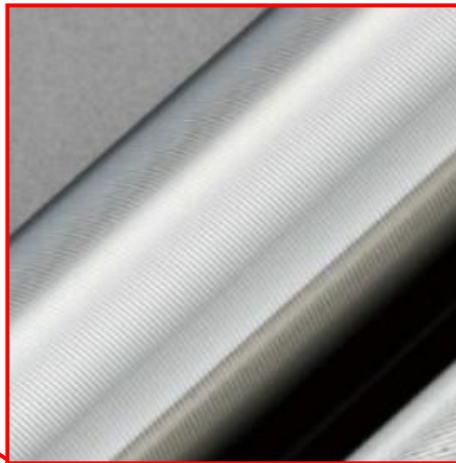
当社製転造コーティングロッド（転造完了時）

- ワイヤーバーの番手に相当するコーティングロッドのラインアップを用意しております。
- 在庫済みの型番につきましては別紙「弊社コーティングロッド在庫リスト」をご参照下さい。

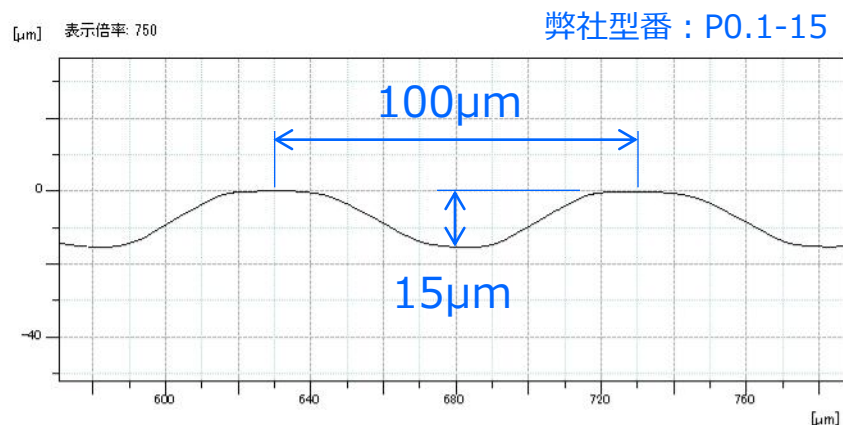
# 転造コーティングロッド概要



外観写真



表面拡大写真



転造コーティングロッド輪郭形状例

# 製作可能範囲

	項目	製作可能範囲
①	ピッチ	0.08~0.8mm
②	溝深さ	0.010~0.160mm
③	全長	~3000mm
④	溝加工範囲	製作時にご指示ください。
⑤	外径	φ6~φ60mm
⑥	材質	ステンレス材 他
⑦	端部形状	ホルダーに合わせて製作致します。
⑧	表面処理	硬質クロムめっき、イオン窒化処理、DLC 他

※溝加工範囲の両端約20mmに転造不全部が発生致します。

※特殊溝仕様の製作も承りますので御相談下さい。

